



メガソーラー発電施設 県のガイドライン 7月から施行

すずか 民 報

第148号
2017年8月

日本共産党鈴鹿市議団 市議会報告

ある日突然、家の周りにソーラーパネルが出現し、周りの景色がガラッと変化したら・・・緑豊かな環境を求めて鈴鹿に移り住んできたが、事前に説明もなく住宅をパネルに囲まれてしまい、平穏な暮らしが脅かされた住民もいます。

社会問題化する メガソーラー事業

自然エネルギーの一つ、太陽光発電事業は当初、環境問題に熱心な市民やNPO法人を中心とする小規模な事業の展開で、地方都市の産業育成の一環として普及してきました。

現在は企業による大型の発電事業になって、遊休農地の利用や山林開発によるメガソーラーは、原発に頼らないエネルギーとして推進する立場と、環境破壊や生活環境を脅かすという相反する現象が起きて社会問題化しています。

今後、被害の未然防止や住民合意でトラブルのない「龍谷ソーラーパーク鈴鹿」

推進ができるような対応が大事になってきます。

自然エネルギーも 規制は必要

個々の市民生活への影響ばかりではなく、森林伐採などで山を切り開く開発は、防災面、街の景観破壊などの問題も心配されます。そのためには一定の基準を設けた規制も必要です。

さらに設置後の雑草など日常的な管理や保守点検、何かあった時の連絡先、会社が倒産したらパネルはどうなるなど、解決すべき問題はたくさんあり、設置したら終わりではありません。

市の担当窓口は、設置 も苦情も環境政策課に

6月議会で森川ヤスエ議員は、市民の住環境と自然環境や景観を守っていくために、①メガソーラーを設置する場合のガイドラインや要綱、条例の検討、②住民側の不安や苦情の受け付けと、担当部署のまとめを行う「再生エネルギーに関する庁内とりまとめ窓口」の設置を求めました。

いつ完成する？なかなか進まない

鈴鹿ICへのアクセス道路4車線化

計画から30年、
残る1.9キロを早く

鈴鹿市中心部と東名阪道・鈴鹿インターチェンジをつなぐ幹線道路「鈴鹿中央線延伸バイパス道路」は、計画決定から約30年になります。工事はなかなか進まず、



東名阪の下をどう抜けるか、協議は未定

6月議会で石田秀三議員は、4車線化完成の見通しについて質問しました。

いま工事中の新名神高速道路が18年度に開通すれば、東名阪の慢性的な渋滞が解消し、鈴鹿ICの利便性が良くなり交通量の増加が予想されます。しかし料金所を出てすぐのアクセス道路が現状2車線のままでは、混雑が解消されません。

石田議員は、東名阪の下を抜ける部分の拡幅がいちばん大きな工事になるが、県とネクスコ中日本との協



石田 秀三 市議

7月1日からスタートする三重県のガイドラインに沿った運用と、窓口の設置を検討したいと答弁がありました。その後、環境政策課を窓口にするとの連絡がありました。



鈴鹿IC手前・東名阪との交差部

鈴鹿中央線延伸バイパス道路

議は行なわれているのか尋ねました。

答弁では、県鈴鹿建設事務所の方針として、当面は東名阪の手前1・3キロ区間の工事を行ない、その後、に東名阪との交差部分の協議を行なうとのこと、4車線化完成のメドは全く立っていません。

石田議員は早期の完成に向けて、当面の工事と並行して東名阪の交差部分からICまでの協議検討を進めよう求めました。

生活交通バス・市民団体の提案



中央循環バス路線

白子→神戸→平田、市内主要施設を約1時間で回る環状バス路線



地域巡回オンデマンドバス

2つ位の行政区をエリアとして、地域内をくまなく走る10人乗りワゴン車を、予約式で運行

生活交通巡回バス費用 (試算・年間)

- 自主運行方式、1日9時間360日運行
- 中央環状バス マイクロバス4台
リース代 1,460万円
- 地域循環バス 7サークル
ワゴン車14台 リース代 2,500万円
- 運転手賃金 5,832万円
- 燃料費 1,968万円
- オペレーター職員 14人=3,360万円
- コンピニクルシステム利用料 1,260万円
- 電話代など 100万円
- <総合計> 16,480万円

財源について

- 年間利用券3千円×3万人=9,000万円(最大)
- 高齢者雇用助成金 2,000万円
- 鈴鹿市一般会計から

買い物、病院、文化・スポーツ活動...
高齢者や交通弱者の外出を支援し
いきいき生活できる鈴鹿市に

高齢者の生活交通について、橋詰圭一議員は一昨年12月議会に続いて4回目の一般質問を行いました。

通システムを、地域ぐるみで作りますことの必要性と、利用者負担も市税負担もなるべく安くする方法について提案しました。

市民団体の提案II 地域巡回バスと中央循環バス

昨年度から公共交通の担当が産業振興部から都市整備部に移り、これからの高齢化社会を見据えた中で、高齢者の移動手段の確保について、福祉や町づくりの観点も入れて検討を始めたことは大いに評価しつつ、現在ある公共交通網との関係や財源論については、さらに議論を深めていく必要があるとのべました。

市民団体「鈴鹿市民のコミバスをよくする会」は、2つくらい行政区を運行エリアとして、地区市民センターに10人乗りワゴン車を2台配置し、電話予約でエリア内をくまなく回る地域巡回オンデマンドバスと、それらを結ぶ形で、市内主要施設を1時間で回る中央循環バス路線を財源を含めて提案しています。

「消えた横断歩道」の塗り直し急いで
市内各地の道路で「横断歩道や停止線が消えたまま」の状態を、15年12月議会で森川議員が質問、また県議会でも問題にされ、担当す

これが実現すれば、高齢者の外出促進になり、毎年7500万円ずつ増え続ける後期高齢者医療費を削減できる。そうなれば市民の幸福感と統一感はいっきに高まるのではないかと述べました。

高齢者の移動手段確保は、市の『焦眉の課題』

答弁のなかでは「高齢者の移動手段の維持、確保を図っていくことは、焦眉の課題である」との認識も示されました。

橋詰圭一議員は、高齢者の移動手段の確保は多くの市民が望んでいること、それを実現するのに1億円程度の財源ででき、同程度の医療費削減も期待できることをあげ、一刻も早い実現を求めました。



橋詰 圭一 市議

警察の17年度予算が増額されました。いま各地で塗り替えが進んでいます。まだ多くが残っています。共産党市議団は、さらに対策を急ぐことを求めています。



きれいに塗られた市役所前の横断歩道

庄野公園内にトイレ設置を

東海道のウォークンクコースとして、石薬師から井田川までの中間に位置する庄野宿。近年、観光客も増えています。いつでも気軽に使えるトイレがありません。観光推進の立場から、石薬師の信綱記念館のトイレの男女別への改善と、庄野公園にトイレの設置を求める声があります。



庄野公園

来年から「国保税」が「国保料」に

保険証発行と保険料納付の窓口が一つに
市民が国民健康保険に支払う「保険料」が、18年度から「保険料」に変更されます。また算定方式から「資産割」をなくして、「所得割」「均等割(人数割)」「平等割(世帯割)」の3方式に改められます。「保険料」になって変わる点は、①徴収事務が納税課から保険年金課に移り、他の市税とは別に納付する。納付相談や滞納の対応窓口も、保険証発行と同じ保険年金課にまとめられる。②徴収の消滅時効が5年から

2年となり、支払い能力のない方の判断や欠損処分も速くできる。などです。国保財政は三重県に一本化



また18年度からは、各市町で行っていた国保の運営財政が県に一本化されます。市町は県が決定する「納付金」を納める義務を負い、県が示す標準保険料率を基に保険料を算定、住民から徴収することになります。6月議会で石田議員は、市はただ県に任せただけでなく、市民負担を少しでも抑えること、一般会計からの支援を行なうことを求めました。

日々の活動はFacebookブログ、HPをご覧ください

- 石田 秀三
- 森川ヤスエ
- はしづめ圭一
- 検索

生活相談など
お気軽に連絡下さい

石田 秀三 ☎371-0423
鈴鹿市伊船町 2751

森川ヤスエ ☎384-3740
鈴鹿市矢橋3丁目10-34

橋詰 圭一 ☎386-8561
鈴鹿市岸岡町 2874-1

森川議員は、建設費用や掃除の問題などを理由に「設置しない」姿勢で臨むのではなく、「トイレがなく困っている」という問題を必ず解決する方向での協議を、強く求めました。

今後の、地域のみなさんと協議を継続するとの答弁でした。